# 東京の
# 伝統工芸品

江戸から伝わる匠の技

東京都

# 東　京　の　伝　統　工　芸　品

東京の伝統工芸品は、長い年月を経て東京の風土と歴史の中で育まれ、時代を越えて受け継がれた伝統的な技術・技法により作られています。伝統工芸品は、手作りの素朴な味わい、親しみやすさ、優れた機能性等が、大量生産される画一的な商品に比べて、私たちの生活に豊かさと潤いを与えてくれます。伝統工芸品は地域に根ざした地場産業として地域経済の発展に寄与するとともに、地域の文化を担う大きな役割を果たしてきており、現在41品目が指定されています。

## 東京都伝統工芸品の指定制度

下記の要件を備える工芸品について、「東京都伝統工芸品産業振興協議会」の意見を聴いて、東京都知事が東京都伝統工芸品に指定しています。

〇製造工程の主要部分が手工業的であること
〇伝統的な技術又は技法により製造されるものであること
〇伝統的に使用されてきた原材料が主たる原材料として用いられ、製造されているものであること
〇都内において、一定の数の者がその製造を行っていること

## 東京都伝統工芸士の認定制度

下記の要件を備える者のうちから、「東京都伝統工芸品産業振興協議会」の意見を聴いて、知事が東京都伝統工芸士に認定しています。

〇東京都伝統工芸品の製造の実務経験が１５年以上あり、現在もその製造に従事していること
〇高度の伝統的技術・技法を有していること
〇伝統工芸品産業振興事業の推進に協力しており、今後も協力できること

### ■東京都　伝統工芸品マーク

このマークがついている製品は東京都知事が指定した伝統工芸品です。
都の紋章と伝統工芸品の頭文字の「伝」をあしらいました。

## 村山大島紬

（むらやまおおしまつむぎ）

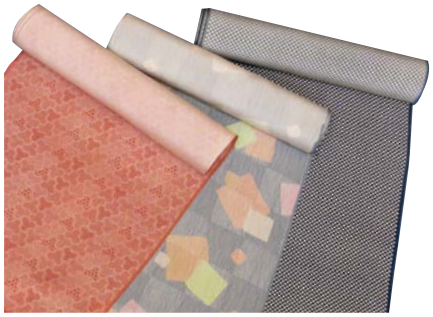
主な製造地：武蔵村山市、瑞穂町、昭島市

村山大島紬の始まりは、江戸時代後期と言われています。1920年頃、綿織物の「村山紺絣」と絹織物の「砂川太織」の２つが合流して、絹織物としての村山大島紬が織られるようになりました。板締め注入染色法という独特の技術で染められた絣糸を用いることが特徴です。

## 東京染小紋

（とうきょうそめこもん）

主な製造地：新宿区、世田谷区、練馬区ほか



小紋の始まりは室町時代にさかのぼります。江戸時代に全国から集まる大名の裃（かみしも）を染めるようになり、産地が形成され華やかに発展しました。染には伊勢型紙が用いられ、その繊細な幾何学模様と単彩の中にも粋で格調高い趣があります。

## 本場黄八丈

（ほんばきはちじょう）

主な製造地：八丈島

八丈島に自生する草木を染料とした草木染めで、絹糸を黄・樺・黒の三色に染め上げ、手織によって織り上げられています。室町時代に八丈島から黄紬の名で絹織物が献上されたという記録があり、江戸時代以後、粋な縦縞、格子縞が織られ、日常着として広く親しまれるようになりました。

## 江戸木目込人形

（えどきめこみにんぎょう）

主な製造地：台東区、墨田区、荒川区ほか

発祥は、江戸時代中期から京都の賀茂で作られた「賀茂人形」にあります。胴体の木地に筋目をつけ、そこに衣裳地を木目込んで作られたことから「木目込人形」と呼ばれるようになりました。今日の江戸木目込人形は「賀茂人形」と比べ、顔が痩せ型で小味のきいた細かい目鼻立ちが特徴です。

## 東京銀器

（とうきょうぎんき）

主な製造地：台東区、荒川区、文京区ほか

江戸時代中期に、彫金師の彫刻する器物の生地の作り手として、銀師（しろがねし）と呼ばれる銀器職人や、かんざし、神輿金具等を作る金工師と呼ばれる飾り職人が登場したことが「東京銀器」の始まりでした。現在では、食器や茶器などの生活必需品や装飾品などが作られています。

## 東京手描友禅

（とうきょうてがきゆうぜん）

主な製造地：新宿区、練馬区、中野区ほか

手描友禅は、江戸時代に京都の絵師「宮崎友禅斎」によって創始されたと言われています。江戸の洗練された庶民文化の中に江戸の友禅として発展し、江戸の粋を現代に伝えています。型紙を用いずに下絵から色挿し、仕上げまでの工程を手描きによって染付けします。

## 多摩織

（たまおり）

主な製造地：八王子市

「桑の都」と呼ばれた八王子では、古くから絹が織られ、文政年間には様々な技法が導入され、明治初期には多くの技術・技法が定着しました。多摩織は、御召織（おめしおり）、紬織（つむぎおり）など５つの織物の総称で、多摩織独特の渋い味わいが特徴です。

## 東京くみひも

（とうきょうくみひも）

主な製造地：台東区、杉並区、北区ほか

日本は 世界でも珍しいくらい「ひも」の発達した国だと言われ、くみひもの起源は、江戸時代以前にさかのぼります。徳川幕府の開設により武具の需要が高まり、くみひもの生産が盛んになりました。地味の中にも、粋があり、ワビ・サビと言われる渋好みの色使いが特徴です。

## 江戸漆器

（えどしっき）

主な製造地：台東区、中央区、足立区ほか

江戸漆器は1590年に江戸城に入城した徳川家康が京都の漆工を招いたのが始まりと言われています。享保時代以降は庶民の日常品として普及し、茶道具、座卓を始め多様な製品が生産されました。特に、そば道具やうなぎの重箱などの業務用食器が特色です。

## 江戸鼈甲

（えどべっこう）

主な製造地：文京区、台東区、墨田区ほか

鼈甲の歴史は古く、正倉院の宝物の中にも鼈甲の装飾品が見られます。江戸時代に張り合わせの技法が伝えられ、複雑な造形ができるようになり、町人文化の台頭とともに豪華な櫛、かんざしなどが作られるようになりました。特に眼鏡枠製造は東京が主産地となっています。

## 江戸刷毛

（えどはけ）

主な製造地：台東区、墨田区、新宿区ほか

刷毛の歴史は古く、かつては、植物のキビの毛を用いて漆を塗る道具として使用していたと言われます。「江戸刷毛」は、江戸中期の文献に当時の刷毛が紹介されていることに由来します。刷毛の命は毛先であり、毛先を整えるとともにクセ直しと脂分の除去が大切な工程となっています。

## 東京仏壇

（とうきょうぶつだん）

主な製造地：台東区、荒川区、足立区ほか

元禄時代に指物師が仕事の合間に独自の技法で製作したのが始まりで、仏教の繁栄により仏壇製作に専念するようになりました。唐木材（黒檀や紫檀など）により作られ、江戸の渋好みの伝統による錺（かざり）金具を使わないシンプルな作りが特徴です。

## 江戸つまみ簪

（えどつまみかんざし）

主な製造地：台東区、荒川区、墨田区ほか

江戸つまみ簪は、小さく刻んだ布切れをつまんで作ることに由来します。江戸時代の初期に江戸城の大奥で古くなった着物を再利用して遊び感覚で簪にしたのが始まりと言われています。最近ではお正月、七五三、成人式などで女性の着物姿を一層ひきたたせています。

## 東京額縁

（とうきょうがくぶち）

主な製造地：台東区、豊島区、荒川区ほか

日本では昔から生活空間を彩る屏風形式の絵画が愛好され、額縁が本格的に作られるようになったのは明治時代を迎え、欧米文化の洋画（油絵）の技術が流入されてからです。今日では日本古来の漆技術を活かし、時代の要求に沿った新感覚の額縁が製作されています。

## 江戸象牙

（えどぞうげ）

主な製造地：台東区、文京区、墨田区ほか

古代エジプトでは豪華な家具や装身具に象牙が用いられ、日本には奈良時代に中国から象牙彫り技法が伝えられました。象牙は、象の門歯が伸びたもので、滑らかな肌ざわり、美しい光沢、半透明の乳白色の色調に特徴があり、江戸時代には根付け、髪飾りなどに愛用されました。

## 江戸指物

（えどさしもの）

主な製造地：台東区、荒川区、江東区ほか

元禄時代には消費生活の発達につれ、大工職から分化し専門の指物師がいたことが知られています。江戸指物は、武家、商人、江戸歌舞伎役者用に多用されました。桑、欅、桐など木目のきれいな原材料を活かし、接合には金釘を使わずに作られています。

## 江戸簾

（えどすだれ）

主な製造地：台東区、港区

清少納言の「枕草子」によると、平安時代の宮廷生活で簾（御簾）が使われていました。江戸の繁栄につれ、武家屋敷、神社仏閣をはじめとして、広く庶民にも使われており、専門の御簾師もいたと言われています。天然素材の味わいをそのまま活かしているのが特徴です。

## 江戸更紗

（えどさらさ）

主な製造地：新宿区、豊島区、荒川区ほか

更紗（ＳＡＲＡＳＡ）は今から三千年以上前の遠い昔、インドで発祥し、日本には室町時代に伝えられたと言われています。更紗の魅力は、木綿に染められた五彩（臙脂えんじ、藍、緑、黄、茶）のカラフルな染め模様にあり、型紙を30枚以上使い、丁寧に色を重ねて作り上げます。

## 東京本染ゆかた・てぬぐい

（とうきょうほんぞめゆかた・てぬぐい）

主な製造地：江戸川区、足立区、葛飾区ほか

平安時代に入浴の際身にまとった湯帷子（ゆかたびら）に始まり、江戸時代には湯上り用に木綿の単（ひとえ）が流行し、その後、外着にも用いられるようになりました。現在では、「注染」という世界でも類を見ない技法を用い、「東京本染ゆかた」と「東京本染てぬぐい」が作られています。

## 江戸和竿

（えどわざお）

主な製造地：台東区、葛飾区、荒川区ほか

江戸時代の享保年間に天然の竹を用いた「継ぎ竿」が作られました。日本特産の布袋竹（ほていたけ）、矢竹（やだけ）、淡竹（はちく）などの様々な種類の竹を使い分け、竹の表皮を活かした漆仕上げをして、あらゆる魚の種類に応じた竿を制作しています。

## 江戸衣裳着人形

（えどいしょうぎにんぎょう）

主な製造地：江戸川区、墨田区、台東区ほか

雛人形、五月人形、市松人形など衣裳を着付ける人形の総称です。江戸時代初期に京都の影響を受けて始まり、江戸中期から後期にかけて度重なる禁令のため江戸独自の発展をとげ、小ぶりで渋い江戸好みの質の高い人形達が生み出されました。現在もその風情は受け継がれています。

## 江戸切子

（えどきりこ）

主な製造地：江東区、江戸川区、墨田区ほか

江戸時代後期、江戸大伝馬町のビード口屋、加賀屋久兵衛が金剛砂を用い切子技法を工夫したのが江戸切子の始まりと言われています。切子とは、硝子の表面に金盤や砥石を用いて様々な模様をカットする技法で、菊、籠目などの伝統柄を種々組み合わせた切子模様が独特です。

## 江戸押絵羽子板

（えどおしえはごいた）

主な製造地：墨田区、江東区、葛飾区ほか

江戸時代に浮世絵師が多く活躍し、歌舞伎役者の羽子板が人気を博しました。「押絵」とは、厚紙等の台紙に布を貼ったり、布に綿をくるんで厚みを持たせた部品を作ったりして立体的な絵を作る技術で、正月の縁起物、女子の成長を祝う品として親しまれています。

## 江戸甲冑

（えどかっちゅう）

主な製造地：墨田区、台東区、文京区ほか

端午の節句は、男の子の健やかな成長を祝う、古くからの伝統行事です。江戸時代後期には、飾り甲冑が作られ、飾り物とされていました。製造工程は複雑多岐で、金工漆工、皮革工芸、組紐などのあらゆる伝統工芸技法を集大成しているのが特徴です。

## 東京籐工芸

（とうきょうとうこうげい）

主な製造地：足立区、豊島区、墨田区ほか

籐は、主に東南アジアに自生するヤシ科の植物で、地球上で最も長く生長の早い植物と言われています。古くは戦国武士の弓に挽籐が用いられ、江戸時代には生活用品として一般庶民に普及しました。今日では、しなやかで軽く、丈夫な籐製品は、日常生活に定着しています。

## 江戸刺繍

（えどししゅう）

主な製造地：足立区、新宿区、江東区ほか

我が国に現存する最古のものは飛鳥時代の繍仏（仏像を刺繍で表現したもの）です。装飾としての刺繍は、平安時代以降であり、公家社会を背景にその豪華さを競いました。江戸時代には、町人の衣類にも刺繍が施され、江戸刺繍が栄えました。

## 江戸木彫刻

（えどもくちょうこく）

主な製造地：葛飾区、足立区、台東区ほか

木彫刻の歴史は仏教の伝来と共に始まったと言われます。平安時代には仏像が彫られ、江戸時代には社寺建築の柱などに装飾を施す建築彫刻が発達しました。現在でも、仏像などの置物彫刻や、みこし、葬祭具等の付属彫刻、欄間などの建築彫刻といった木彫刻が作られています。

## 東京彫金

（とうきょうちょうきん）

主な製造地：台東区、文京区、足立区ほか

彫金の技術は古墳時代を起源としています。江戸時代には刀剣のほか、煙管（きせる）、根付などにも用いられました。鏨（たがね）一つで丹念に彫り、様々な模様を描き出し、さらに独特の着色方法を用いて、精錬された味わいを持つ作品を生みだしています。

## 東京打刃物

（とうきょううちはもの）

主な製造地：足立区、荒川区、台東区ほか

「日本書記」によると、日本の鍛冶の始まりは敏達天皇の時代（６世紀）と言われています。武士階級の台頭につれて切れ味の鋭い日本独自の打刃物が発達し、その後、文明開化とともに洋風刃物の製作が行われ、今日まで続く東京打刃物の基礎が築き上げられました。

## 江戸表具

（えどひょうぐ）

主な製造地：大田区、江東区、台東区ほか

表具・表装の技術は、仏教とともに中国から伝わり、その後、床の間の発生や茶道の興隆により需要が増え、江戸時代には上流社会の必需品となりました。伝統的な色目使いを重んじた格調高い取り合わせを基調とし、掛軸は、丈は短め、色調は淡彩、淡白なところに特徴があります。

## 東京三味線

（とうきょうしゃみせん）

主な製造地：中央区、台東区、豊島区ほか

三味線の祖は中国の三絃（さんげん）にあり、14世紀末に元から琉球国を経て、室町永禄年間に大阪の堺に渡来し、当時、琵琶法師が小唄や踊唄に合わせて演奏しました。東京三味線は、全工程（除く胴作り）を一人で製作しています。

## 江戸筆

（えどふで）

主な製造地：台東区、豊島区、練馬区ほか

「筆」は、文房四宝（硯・墨・筆・紙）の１つです。610年頃、高句麗の僧が、製法を伝えたのが筆の始まりと言われています。江戸中期に商人の台頭とともに寺子屋の急増で需要が増大し、筆職人の技術も進歩して、多くの江戸名筆を生みました。

## 東京無地染

（とうきょうむじぞめ）

主な製造地：新宿区、中野区、杉並区ほか

染法の中で最も基本的な染で、植物で布地に色付けすることから始まりました。仏教の伝来と共に、藍、紅花が渡来し、奈良・平安時代に技術が確立され、江戸時代には江戸紫、江戸茶などの無地染が江戸庶民文化として芽生え、庶民の間で広く愛用されました。

## 東京琴

（とうきょうこと）

主な製造地：文京区、世田谷区、渋谷区ほか

琴は、奈良時代に雅楽として中国から伝来し、安土桃山時代にあみだされた筑紫琴が源流となっています。その後、琴師の重元房吉が琴の長さや厚み、ムクリ（縦方向のソリ）に改良を加え、音量、音質に東京琴の特徴を出しました。

## 江戸からかみ

（えどからかみ）

主な製造地：江戸川区、練馬区、文京区ほか

唐の国から渡ってきた紋唐紙は、時とともに江戸の武家や町人の住まいの装飾として、襖や壁に用いられるようになり、享保年間には江戸に千型もの版木があったと言われるほど隆盛を誇りました。木版摺りをはじめ、捺染摺り、砂子蒔きなど、その意匠と技術は今も受け継がれています。

## 江戸木版画

（えどもくはんが）

主な製造地：台東区、荒川区、文京区ほか

木版画の歴史は古く、約1,200年前に木版を利用して衣服の文様を表した蛮絵（ばんえ）が正倉院に所蔵されています。江戸時代に下絵を書く絵師、版木に彫る彫師、紙に摺る摺師の分業体制が形成され、歌麿、北斎、広重等の精緻な表現技法の確立により完成の域に達しました。

## 東京七宝

（とうきょうしっぽう）

主な製造地：台東区、荒川区、北区ほか

七宝は、金、銀、銅などの金属製の下地にガラス質の釉薬をのせて高温で焼成する工芸品です。東京七宝は、江戸初期、平田道仁が朝鮮からの渡来人に七宝技術を学び、凹部に色付けしたものが始まりと言われており、現在では装身具、校章、社章など多くに用いられています。

## 東京手植ブラシ

（とうきょうてうえぶらし）

主な製造地：台東区、墨田区、荒川区ほか

19世紀の中頃、世界に向けての開国とともに、日本を訪れた欧米人への日常生活用ブラシ（洋服ブラシ、馬洗いブラシ等）が必要となり、幕府・各藩は洋式軍制を導入したことでブラシ製造工業が発展しました。手植ブラシは、機械植えに比べ、植毛が密であり、多様な台材が使用できます。

## 江戸硝子

（えどがらす）

主な製造地：墨田区、江東区、江戸川区ほか

日本の硝子製造は、弥生時代に始まり、江戸における硝子は18世紀の初め、鏡、眼鏡、風鈴等を製造したのが始まりとされています。欧州の技術の導入により、明治時代初期に工芸品を近代化し、東京の下町の地場産業として発展しました。

## 江戸手描提灯

（えどてがきちょうちん）

主な製造地：台東区、荒川区、墨田区ほか

16世紀の初め、室町時代に初期の提灯と認められる籠提灯（かごちょうちん）が使われたのが始まりと言われ、江戸時代に提灯が普及しました。提灯に描き入れる文字は江戸文字と言われ、線の入れ方を工夫して、バランスよく遠くからも見やすく描くのが特徴です。

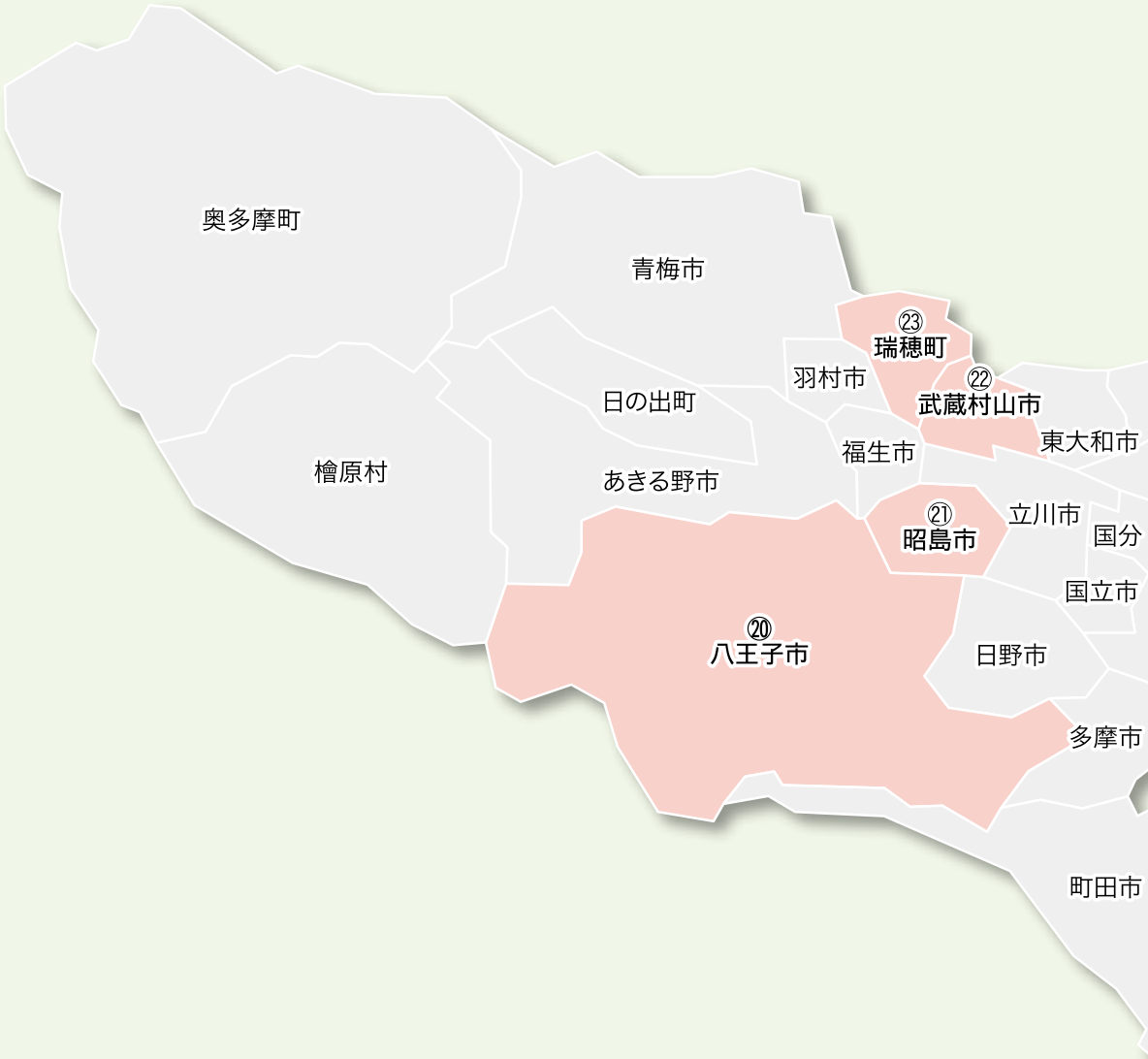
## 東京洋傘

（とうきょうようがさ）

主な製造地：台東区、中央区、北区ほか

江戸時代後期に西洋から渡来した洋傘は、文明開化とともに東京の職人たちの手で製造され始めました。美しい仕上げや使い心地の良さを実現する伝統の技術や技法が散りばめられた雨傘や日傘は宮中の陛下御一門から広がりやがて一般庶民に普及し、今も我々の生活を彩っています。

# 東　京　の　伝　統　工　芸　品　産　地




注　本図は、それぞれの伝統工芸品の主な産地上位３位までについて示したものです。
　　このため、この地域以外において製造されているところもあります。

**①　中央区**
- 江戸漆器
- 東京三味線
- 東京洋傘

**②　港区**
- 江戸簾

**③　新宿区**
- 東京染小紋
- 東京手描友禅
- 江戸刷毛
- 江戸更紗
- 江戸刺繍
- 東京無地染

**④　文京区**
- 東京銀器
- 江戸鼈甲
- 江戸象牙
- 江戸甲冑
- 東京彫金
- 東京琴
- 江戸からかみ
- 江戸木版画

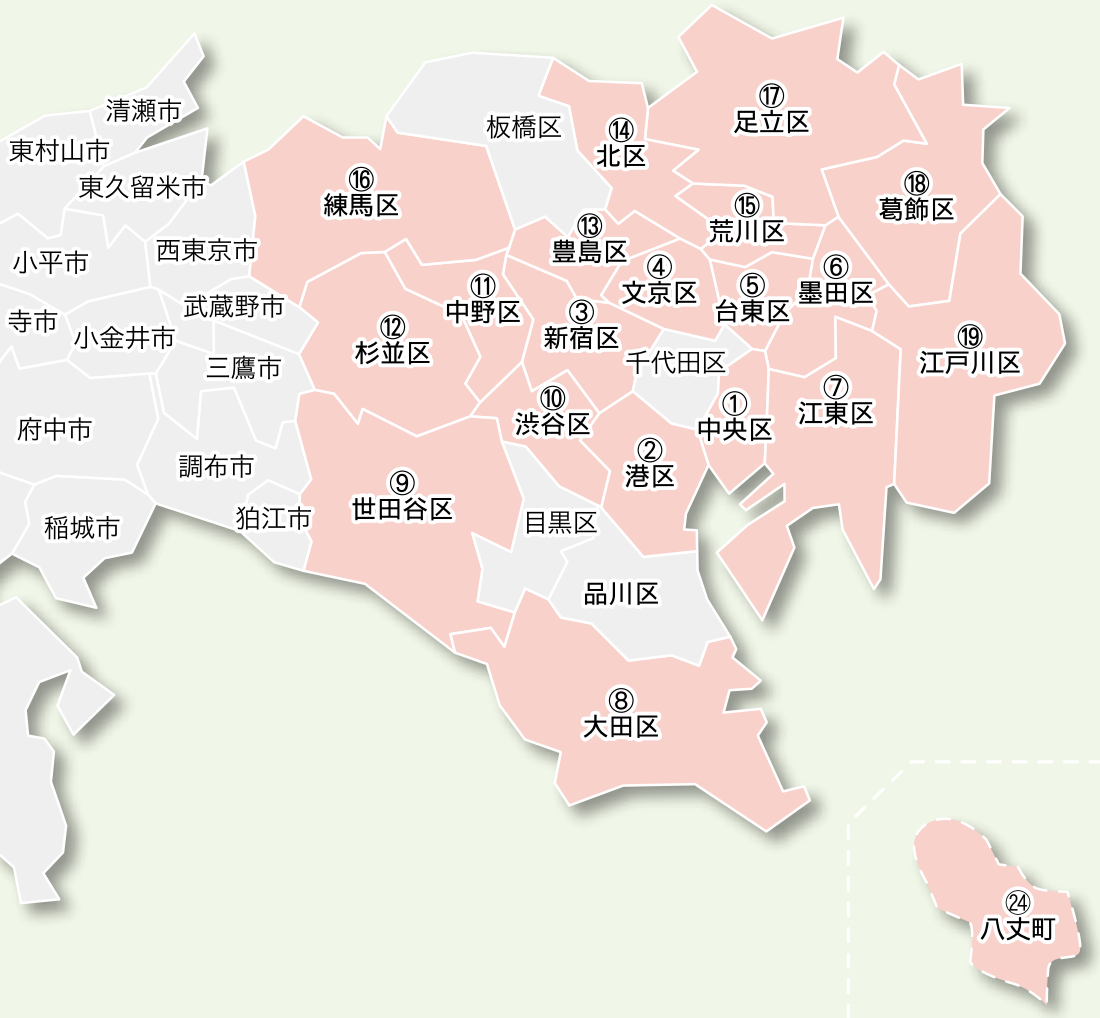
**⑤　台東区**
- 江戸木目込人形
- 東京銀器
- 東京くみひも
- 江戸漆器
- 江戸鼈甲
- 江戸刷毛
- 東京仏壇
- 江戸つまみ簪
- 東京額縁
- 江戸象牙
- 江戸指物
- 江戸簾
- 江戸和竿
- 江戸衣裳着人形
- 江戸甲冑
- 江戸木彫刻
- 東京彫金
- 東京打刃物
- 江戸表具
- 東京三味線
- 江戸筆
- 江戸木版画
- 東京七宝
- 東京手植ブラシ
- 江戸手描提灯
- 東京洋傘

**⑥　墨田区**
- 江戸木目込人形
- 江戸鼈甲
- 江戸刷毛
- 江戸つまみ簪
- 江戸象牙
- 江戸衣裳着人形
- 江戸切子
- 江戸押絵羽子板
- 江戸甲冑
- 東京籐工芸
- 東京手植ブラシ
- 江戸硝子
- 江戸手描提灯

**⑦　江東区**
- 江戸指物
- 江戸切子
- 江戸押絵羽子板
- 江戸刺繍
- 江戸表具
- 江戸硝子

**⑧　大田区**
- 江戸表具

**⑨　世田谷区**
- 東京染小紋




東京琴

**⑩ 渋谷区**
東京琴

**⑪ 中野区**
東京手描友禅
東京無地染

**⑫ 杉並区**
東京くみひも
東京無地染

**⑬ 豊島区**
東京額縁
江戸更紗
東京籐工芸
東京三味線
江戸筆

**⑭ 北区**
東京くみひも
東京七宝
東京洋傘

**⑮ 荒川区**
江戸木目込人形
東京銀器
東京仏壇
江戸つまみ簪
東京額縁
江戸指物
江戸更紗
江戸和竿
東京打刃物
江戸木版画
東京七宝
東京手植ブラシ
江戸手描提灯

**⑯ 練馬区**
東京染小紋
東京手描友禅
江戸筆
江戸からかみ

**⑰ 足立区**
江戸漆器
東京仏壇
東京本染ゆかた・てぬぐい
東京籐工芸
江戸刺繍
江戸木彫刻
東京彫金
東京打刃物

**⑱ 葛飾区**
東京本染ゆかた・てぬぐい
江戸和竿
江戸押絵羽子板
江戸木彫刻

**⑲ 江戸川区**
東京本染ゆかた・てぬぐい
江戸衣裳着人形
江戸切子
江戸からかみ
江戸硝子

**⑳ 八王子市**
多摩織

**㉑ 昭島市**
村山大島紬

**㉒ 武蔵村山市**
村山大島紬

**㉓ 瑞穂町**
村山大島紬

**㉔ 八丈町**
本場黄八丈

# 東京都伝統工芸品指定産地組合一覧

| | 工芸品名 | 産地組合名 | 組合電話番号 | 組合所在地 | 指定年月日<br>( )は国指定年月日 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 村山大島紬 | 村山織物協同組合 | 042(560)0031 | 208-0004　武蔵村山市本町2-2-1 | S57.12.24<br>(S50.2.17) |
| 2 | 東京染小紋 | 東京都染色工業協同組合 | 03(3208)1521 | 169-0051　新宿区西早稲田3-20-12 | S57.12.24<br>(S51.6.2) |
| 3 | 本場黄八丈 | 黄八丈織物協同組合 | 04996(7)0516 | 100-1621　八丈島八丈町樫立346-1 | S57.12.24<br>(S52.10.14) |
| 4 | 江戸木目込人形 | 東京都雛人形工業協同組合 | 03(3861)3950 | 111-0052　台東区柳橋2-1-9　東商センタービル4階 | S57.12.24<br>(S53.2.6) |
| 5 | 東京銀器 | 東京金銀器工業協同組合 | 03(3831)3317 | 110-0015　台東区東上野2-24-4 | S57.12.24<br>(S54.1.12) |
| 6 | 東京手描友禅 | 東京都工芸染色協同組合 | 03(3953)8843 | 161-0032　新宿区中落合3-21-6 | S57.12.24<br>(S55.3.3) |
| 7 | 多摩織 | 八王子織物工業組合 | 042(624)8800 | 192-0053　八王子市八幡町11-2 | S57.12.24<br>(S55.3.3) |
| 8 | 東京くみひも | 江戸くみひも伝承会 | 03(3873)2105 | 111-0022　台東区清川1-27-6　㈱桐生堂内 | S57.2.4 |
| 9 | 江戸漆器 | 東京都漆器商工業協同組合 | 03(5600)9401 | 103-0021　墨田区緑2-21-9 | S57.2.4 |
| 10 | 江戸鼈甲 | 東京鼈甲組合連合会 | 03(3823)0038 | 103-0004　中央区東日本橋2-10-5　化粧品会館 | S57.2.4<br>(H27.6.18) |
| | | 東京鼈甲工芸品工業協同組合 | 03(3828)9870 | 111-0001　台東区谷中3-22-8 | |
| | | 東日本べっ甲事業協同組合 | 03(3823)0038 | 103-0004　中央区東日本橋2-10-5　化粧品会館 | |
| | | 東京装粧品協同組合<br>第四部貴金属・べっ甲工芸品部 | 03(3863)4083 | 101-0025　千代田区神田佐久間町4-2 | |
| 11 | 江戸刷毛 | 東京刷子工業協同組合 | 03(3622)5304 | 130-0001　墨田区吾妻橋2-2-14　東京ブラシ会館 | S57.2.4 |
| 12 | 東京仏壇 | 東京唐木仏壇工業協同組合 | 03(3620)1201 | 120-0005　足立区綾瀬4-9-32　コーポすみれ１階 | S57.12.24 |
| | | 東京宗教用具商業協同組合 | 03(3542)5771 | 104-0061　中央区銀座7-14-3 | |
| 13 | 江戸つまみ簪 | 東京髪飾品製造協同組合 | 03(3861)0522 | 111-0056　台東区小島2-9-10 | S57.12.24 |
| 14 | 東京額縁 | 東京額縁工業協同組合 | 03(3851)9432 | 111-0053　台東区浅草橋4-19-2　㈲額縁工房田島内 | S57.12.24 |
| 15 | 江戸象牙 | 東京象牙美術工芸協同組合 | 03(3841)2533 | 111-0035　台東区西浅草3-26-3 | S58.3.10 |
| 16 | 江戸指物 | 江戸指物協同組合 | 03(3801)8506 | 116-0002　荒川区荒川3-26-1 | S58.8.1<br>(H9.5.14) |
| 17 | 江戸簾 | 東京簾工業協同組合 | 03(3873)4653 | 111-0031　台東区千束1-18-6　田中製簾所内 | S58.8.1 |
| 18 | 江戸更紗 | 東京都染色工業協同組合 | 03(3208)1521 | 169-0051　新宿区西早稲田3-20-12 | S58.12.27 |
| 19 | 東京本染ゆかた・てぬぐい | 関東注染工業協同組合 | 03(3693)3333 | 124-0012　葛飾区立石4-14-9　東京和晒㈱内 | S58.12.27 |

| | 工芸品名 | 産地組合名 | 組合電話番号 | 組合所在地 | 指定年月日<br>( )は国指定年月日 |
|---|---|---|---|---|---|
| 20 | 江戸和竿 | 江戸和竿組合 | 03(3803)1893 | 116-0003　荒川区南千住5-11-14　竿忠方 | S59.11.1<br>(H3.5.20) |
| 21 | 江戸衣裳着人形 | 東京都雛人形工業協同組合 | 03(3861)3950 | 111-0052　台東区柳橋2-1-9　東商センタービル4階 | S59.11.1<br>(H19.3.9　※) |
| 22 | 江戸切子 | 江戸切子協同組合 | 03(3681)0961 | 136-0071　江東区亀戸4-18-10 | S60.7.15<br>(H14.1.30) |
| 23 | 江戸押絵羽子板 | 東京都雛人形工業協同組合 | 03(3861)3950 | 111-0052　台東区柳橋2-1-9　東商センタービル4階 | S60.7.15 |
| 24 | 江戸甲冑 | 東京都雛人形工業協同組合 | 03(3861)3950 | 111-0052　台東区柳橋2-1-9　東商センタービル4階 | S61.7.18<br>(H19.3.9　※) |
| 25 | 東京籐工芸 | 籐事業協同組合 | 03(3862)3101 | 111-0052　台東区柳橋1-30-6　小西貿易㈱内 | S61.7.18 |
| 26 | 江戸刺繍 | 東京刺繍協同組合 | 03(3881)3148 | 120-0043　足立区千住宮元町17-18 | S62.7.27 |
| 27 | 江戸木彫刻 | 日本木彫連盟江戸木彫刻 | 03(3849)0217 | 120-0015　足立区足立1-34-17　サトー彫刻内 | S63.7.29 |
| 28 | 東京彫金 | 日本彫金会 | 03(3997)0718 | 177-0032　練馬区谷原3-15-4 | S63.7.29 |
| 29 | 東京打刃物 | 東京刃物工業協同組合 | 03(6904)1080 | 175-0094　板橋区成増2-26-18-101 | H元.7.26 |
| 30 | 江戸表具 | 東京表具経師内装文化協会 | 03(5826)1773 | 110-0015　台東区東上野4-10-14　第2東ビル402号 | H元.7.26 |
| 31 | 東京三味線 | 東京邦楽器商工業協同組合 | 03(5836)5663 | 132-0035　江戸川区平井4-1-17　向山楽器店内 | H2.8.9 |
| 32 | 江戸筆 | 一般社団法人東京文具工業連盟 | 03(3864)4391 | 111-0053　台東区浅草橋1-3-14 | H2.8.9 |
| 33 | 東京無地染 | 東京都染色工業協同組合 | 03(3208)1521 | 169-0051　新宿区西早稲田3-20-12 | H3.8.15<br>(H29.11.30) |
| 34 | 東京琴 | 東京邦楽器商工業協同組合 | 03(5836)5663 | 132-0035　江戸川区平井4-1-17　向山楽器店内 | H3.8.15 |
| 35 | 江戸からかみ | 江戸からかみ協同組合 | 03(3842)3785 | 110-0015　台東区東上野6-1-3　東京松屋ショールーム・ショップ内 | H4.8.20<br>(H11.5.13) |
| 36 | 江戸木版画 | 東京伝統木版画工芸協同組合 | 03(3830)6780 | 112-0005　文京区水道2-4-19 | H5.12.17<br>(H19.3.9) |
| 37 | 東京七宝 | 東京七宝工芸組合 | 03(3844)8251 | 111-0041　台東区元浅草1-2-1　坂森美術七宝工芸店内 | H14.1.25 |
| 38 | 東京手植ブラシ | 東京刷子工業協同組合 | 03(3622)5304 | 130-0001　墨田区吾妻橋2-2-14　東京ブラシ会館 | H14.1.25 |
| 39 | 江戸硝子 | 一般社団法人東部硝子工業会 | 03(3631)4181 | 130-0026　墨田区両国4-36-6 | H14.1.25<br>(H26.11.26) |
| 40 | 江戸手描提灯 | 東京提灯業組合 | 03(3801)4757 | 116-0003　荒川区南千住2-29-6　泪橋大嶋屋内 | H19.12.19 |
| 41 | 東京洋傘 | 東京都洋傘協同組合 | 03(3851)5328 | 111-0053　台東区浅草橋5-8-1 | H30.3.22 |

※「江戸衣裳着人形」と「江戸甲冑」は「江戸節句人形」の名称で、国の指定を受けました。

◆お問い合わせ先

**東京都産業労働局商工部経営支援課**
〒163−8001　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話　03(5320)4659
ホームページ　https://dento-tokyo.jp/

**公益財団法人東京都中小企業振興公社　城東支社**
〒125−0062　東京都葛飾区青戸七丁目２番５号
電話　03(5680)4631
ホームページ　http://www.tokyo-kosha.or.jp/



産業労働局商工部経営支援課
平成30年７月発行
登録番号(30)92



リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

R70
古紙パルプ配合率70%再生紙を使用しています